江藤俊哉

1927年11月9日東京で生まれ、4才の時から鈴木鎮一氏にバイオリンの手ほどきをうけ、12才で毎日コンクールに出場、1位に入賞し文部大臣賞を得た。アレキサンダー・モギレフスキー氏について研究を続け、東京音楽学校に入学。1948年3月首席で卒業し、4月同校講師となった。1946年同校在学中東京室内楽協会の第一バイオリン奏者として活躍した。続く2年間に日本交響楽団等の独奏者として舞台に立った。

1948年渡米、フィラデルフィアのカーチス音楽院に入学、エフレム・ジンバリスト氏の特別指導を受けた。1952年卒業、53年同学院の教授となった。この1951年カーネギー・ホールにデビューし、日本人のバイオリン奏者として始めて国際音楽家の地位を確保した。

1954年11月6年振りに帰国、全国約10回のコンサートを開催、その研鑽振りを披歴し、音楽愛好家の絶讃を博したことは未だ記憶に新しいところである。

1955年1月オルマンディー指揮フィラデルフィア交響楽団と協奏し、以後北・南米にわたり広く演奏活動を開始した。

1955年9月8日現在のアンゼラ夫人と結婚し、カーチス俊哉、マイケル俊哉の2児をもうけた。

1958年10月は再びカーネギー・ホールに独奏会を持ち、12月にはアメリカ・デッカレコードの専属となり、録音を開始した。

1959年丸5年振りに初めて夫人子供同伴の上賑やかに帰国し、1960年再び帰国したが、1961年5月、日本永住の念願を実現するためカーチス音楽院の教授を辞任し、東京に居をかまえた。

江藤玲子

伴奏者の江藤玲子は俊哉の令妹。1929年9月東京に生まれた。1949年4月東京音楽学校ピアノ科を卒業し、同51年同校研究科を卒業した。故クロイツアー教授の愛弟子。

1955年10月渡米、カーチス音楽院入学（本年）5月同楽院卒業とともにピアノ科教授に迎えられた。渡米以来、兄俊哉と共に屢々アメリカ各地に演奏旅行を続けた。

現在、東京に在って芸術大学のピアノ科の教授として後進の指導にあたるかたわら演奏活動を続けている。